

# ヴィンフリート・ウルリヒ教授 講演会

## こっそりと指をさす Der verdeckte Fingerzeig

ウィット

－ 洗練されたコミュニケーション手段としての「ほのめかし」 小話の例から －  
Die Anspielung als Form elaborierter Verständigung, aufgezeigt am Beispiel des Anspielungswitzes

日時： 2016年10月6日(木)16:00～18:00

場所： 鹿児島大学教育学部第二講義棟(アクティブラーニングプラザ)2階 講義室2

\* 通訳付き、入場無料(どなたでも聴講できます)

このたび鹿児島大学教育学部国際理解教育ではドイツ・キール大学より Dr.ヴィンフリート・ウルリヒ教授を迎えて、講演会を開催します。演題は専門の言語学に関わるものですが、数多くの愉快的小話を実例に交えた、分かりやすく楽しい講演になります。大勢の皆様の聴講をお待ちしています。

### Dr.ヴィンフリート・ウルリヒ教授略歴

**Professor Dr.Dr.h.c.mult.Winfried Ulrich, Universität Kiel**

1941年 ドラムブルク (ポンメルン) 生まれ

ハンブルク大学とテュービンゲン大学でドイツ語学・文学および神学を専攻

1970～80年 ロイトリンゲン教育大学教授

1980～1994年 キール教育大学教授 (1990～93年 同学長)

1994～2006年 キール大学教授

アリゾナ大学(米)、クイーンズランド大学、モナシュ大学(豪)などで客員教授。タリン大学(エストニア)名誉教授、セグド大学(ハンガリー)名誉教授。シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州大学協会学術部長(2004～09年)。キール大学 大学表彰(2009年)

### 主な著書:

『16世紀教会歌の語彙に関する意味論的研究』(1966年)

『発話および筆記の刺激としてのイメージ』(1976年)

『ドイツ語授業のための言語学』(1976年)

『辞書 ドイツ語授業の基本概念』(1979年)

『ドイツ語授業のジョーク』(1980年)

『文法』(1997年)

『言葉遊び テキストと注釈』(1999年)

『若い読者のための言葉遊び』(2000年)

『ドイツ語教授法』(2001年)

『ドイツ語母語教育のための語彙』(2007年)

『ドイツ語授業 理論と実践』(2008年～16年)

『ドイツ語授業における造語と連語』(2016年)

\* その他、言語学および言語教育に関する論文多数



主催: 鹿児島大学教育学部国際理解教育

後援: 鹿児島日独協会

お問い合わせ: 鹿児島大学教育学部 竹内 宏

takeutih@edu.kagoshima-u.ac.jp (099-285-8894)

なお講演会終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています(会費 5千円前後、会場未定)。